

『関東ロールシャッハ“複合”研究会』のご案内

本研究会は、主にロールシャッハ・テストにおける『阪大法』を学ぶ研究会となっておりますが、「複合」の名の通り、様々な他のスクールで学ぶ人にとっても理解がしやすいように工夫し、これまで事例検討や自主勉強会等を通して学びを深めてまいりました。

昨年度からはオンラインでも参加が可能となりました。守秘義務が遵守できる臨床心理士/公認心理師及び臨床心理学を学ぶ大学院生の参加が可能です。皆様のご参加をお待ちいたしております。



QR：研究会HP

《2022 年度研究会予定（前期）》

- ①4/24（日）13:00～17:00 『事例検討（会員同士）』
- ②5/29（日）13:00～17:00 『事例検討（会員同士）』
- ③6/12（日）13:00～17:00 『読書会』 ※内容は決定次第通知
- ④7/3（日）13:00～16:00 『事例検討（講師；放送大学教授 橋本朋広先生）』
- ⑤8/7（日）13:00～16:00 『事例検討（講師；大阪教育大学教授 石橋正浩先生※予定）』
- ⑥9/11（日）13:00～16:00 『事例検討（講師；放送大学教授 橋本朋広先生）』

◎後期予定および予定の変更等は、HP (<https://www.kantororschachfukugou.com>) をご参考に。

◎研究会への通年参加や事例発表を希望される方は事務局 (e.rorschach.fsg@gmail.com) まで。

◎2022 年度「臨床心理士継続研修ポイント」申請予定（通年で7割以上参加が必要）。

◎金子書房より出版されている「改訂版 ロールシャッハ・スコアリング 阪大法マニュアル」をご用意ください。

—2022 年度参加費 年会費 20,000 円（大学院生 15,000 円）—
単発参加の場合は 1 回 3,000 円



—阪大法とは？—

阪大法は大阪大学医学部精神医学科教室の故辻悟先生を中心とした「関西ロールシャッハ研究会」の活動とともに発展し、今日に至っております。

ロールシャッハの多くの流派が『主題・内容分析』を用いて解釈を進めていくのに対し、阪大法では『形式・構造分析』というオリジナルな考え方をを用いて被験者のところにアプローチします。

この『形式・構造分析』の一端に触れると、被験者が「初期集約的把握」と呼ばれる発達段階を通過し、また「外輪郭形体」を捉えて反応しているか否かをプロトコルから読み取り、解釈につなげます。これは精神分析的には自我境界の成立とも関連し、被験者の心の構造がプレエディパル～エディパルのどこに定位するののかとの理解にもつながっていきます。また記号化のプロセス自体を解釈過程と捉え、被験者のこのころのあり方を追体験しようとするのも阪大法の大きな特徴です。

中級者向けとも言われる阪大法ですが、ケース理解や心理療法の進め方、また近年注目されている発達障害においても、内的世界や精神構造を理解する上で重要な視点を提供します。当研究会では皆様の「わからない」「知りたい」という学びへの主体性を大切に、共に成長を目指してまいります。

